

## (文部科学省) 全体ヒアリング概要

日時：平成21年9月8日(火)

場所：合同庁舎4号館4階第2特別会議室

聴取者：有識者議員 相澤議員、本庶議員、奥村議員、白石議員、青木議員、  
金澤議員

内閣府 藤田政策統括官、梶田審議官、岩瀬審議官、大江田審議官、  
須藤参事官、更田企画官

説明者：文部科学省 泉科学技術・学術政策局長

### 【白石議員】

基礎科学力強化総合戦略を策定したとのことであるがどの程度予算を配分したのか。スパコンについてNECが撤退を表明したがどう手当するのか。

### 【文部科学省】

ポンチ絵資料の「1. 総合的かつ体系的な基礎科学力強化策の展開」に列記されている施策が相当する。スパコンについては、科学技術・学術審議会の情報委員会で中間評価を受け、それに基づき、22年度も継続要求している。ベクトル型の基本設計部分はNECが責任を持って行い、それを理研が引き継ぐ。22年度要求には、新たなアプリケーションの開発について、スカラー型でも対応出来るようにする予算に盛り込んでいる。

### 【奥村議員】

文部科学省の重要な使命は、基礎科学の発展と人材育成であり、ここは他の府省にはできない。将来をにらんでグランドデザインがあって予算要求していると思うが、この2つの課題についてどう取り組むのかについてお聞きしたい。例えば、基礎科学について国際的な立ち位置の現状がどうで、何年後にどうしたいのか、そのためにどのような手段で人材育成と基礎科学に取り組むのか。

### 【文部科学省】

論文のフォローアップ調査によれば、TOP10に入るような強い分野もある。投資という観点からは、政府開発投資は対GDP費で0.64%に対し、アメリカは0.74%程度。このように各国とも基礎科学に取り組んでおり、科学技術関係予算の充実を図る必要がある。投資水準のベンチマークを見ながら、基礎研究を重視している。第二期基本計画では、数年後のノーベル賞受賞者数といった目標を立てたが、どんな水準を目指すのか、第4期に向けた議論や総合科学技術会議のご指導を受けながら検討していきたい。

#### 【本席議員】

文部科学省の予算は大まかには、競争的資金、大学、研究開発独法と分けられる。大学の役割は、基礎研究と人材育成。一方、研究独法の役割は、実用化などの出口に近いところになると思うが、研究独法の具体的な役割、目標が見えにくい。それがはっきりしないと評価できない。具体化に向けた努力の方向性は？

また、大学の運営費交付金の削減により、一部の大学には限界が来ているとも聞く。現行の体制で良いのかの検討が必要ではないか。

#### 【文部科学省】

独法は個別法で任務が定められている。さらに国が中期目標を提示し、それぞれ目標達成に向け中期計画を策定し、それを国が認可して様々な取組を行っている。中期計画の中で分かりやすく、クリアに記述し、広報することが重要と考えている。

独法の国の機関としてのふさわしいあり方については、研究開発強化法の附則で総合科学技術会議が検討することとなっているので、それを踏まえてご相談していきたい。

大学の運営費交付金削減の流れは何とか打開したい。大学のあり方のグランドデザインは平成17年度の将来像についての答申が相当すると考えている。

運営費交付金が第1期中に720億円（5.8%）減となっており、来期の課題でもある。100以上あった国立大学が今では86に再編されている。さらに国立大学の役割等について中教審等でも議論しており、その結果を踏まえて対応したい。

#### 【相澤議員】

基礎科学力強化総合戦略を策定したのは評価するが、予算要求にはどう反映しているのか。この資料では既存施策に新規施策を一つ加えたに過ぎないように見える。大きな戦略の下でと言う割には見えにくくなっているので、再整理が必要ではないか。

また、トップレベル拠点の拡充についても、WPIの位置づけ、展望が重要なのにポリシーが出てこない。大学を世界トップレベルに持って行くような施策が細分化されており、今年のまとめ方は方向性が見えにくい。再整理していくべきではないか。

#### 【文部科学省】

基礎科学力強化総合戦略に基づく施策については、別に資料があるので、それに差し替えたい。WPIも30拠点を目指し、大学に設けられるものも研究に軸足を置いての人材育成し、もあり得るが、基本的には、世界のトップレベルの研究社が集まるような拠点形成が根幹にある。研究環境も含め取り組んで拠点を形成していきたい。

#### 【奥村議員】

日本の高校生の物理の履修率が2割を切っているという状況である。また、旧帝大理工系学部の4割が物理を履修していない。アメリカでも過去に物理の履修率が2割

に下がったが、国を挙げて教え方について見直して履修率を30%強に上げている。

こういう課題に対応できるのは文部科学省のみであり、主導していかないといけないのではないかと。将来を見据え、骨太な継続的な施策として、10年20年先の成長に寄与するために取り組んで行くべき。

【文部科学省】 理科支援員の配置等を行っている。

のびる子をのばすために、スーパーサイエンススクールを実施。

裾野を広げる施策を補正で行っており、引き続き対応していきたい。

理科教育の中核となる教員養成プログラムについて検討していきたい。

【奥村議員】

ある課題について、あれもやっているこれもやっていると言われても総花的。中核の施策が何で補う施策は何か分かるようメリハリをつけて体系的に提示して欲しい。ポイントは教員の問題なのではないかと思う。

【文部科学省】

理数系教員の養成を強化する施策としてCSTを拡充している。

【本席議員】

WPI等の最先端研究拠点については、施設整備したから良い研究が出来るわけではない。良い研究者が良い研究を実施するしかない。そのためには人材育成が重要である。文部科学省として独立した若手研究者の割合を2割に向上しようとする姿勢は評価できる。具体的にはどう進めるのか。引き続きシステム改革に取り組むことが重要ではないか。

【文部科学省】

実際に研究をやるのは個人。その個人を育てていく。若手の研究者の新規の2割は独立研究者にする目標がある。今は人材委員会でテニユアトラック制度の導入が科学技術振興調整費を活用して進められており、現在は若手350名くらい。これかを広げていきたい。新規5000人に対して2割の1000人程度に持って行きたい。第4期基本計画の目標になるかもしれない。システムを定着させるための施策も検討したい。

【本席議員】

WPIと一緒に進めれば若手研究者のモチベーションにもつながると思う。

【金澤議員】

戦略的基礎科学研究強化プログラムを進める予算が50億というのは少ないので

はないか。数字の根拠はあるのか。

【文部科学省】

人物に着目して、最長10年にわたりじっくりと腰を落ち着けて研究をして欲しいと考えている。10領域程度を選定し、1領域あたり5億円と積算した。23年度以降も新規採択すると予算が増えていくことになる。検討していきたい。

【金澤議員】

10領域の根拠は。

【文部科学省】

1領域あたり、1人か2人の研究者を考えている。最初に選抜するのは10人程度なので、10領域としている。選考過程の透明性が課題と考える。

【相澤議員】

予算も多いし、対象分野が広い。あれこれ対応するために予算を接ぎ木のように重ねて行って、幹が見えなくなっている。幹が見えるよう整理したほうが良いのではないか。

【文部科学省】

カバーしている部分が多いが、資源配分方針等を受け、どう対応しているか示そうとしたらこのような整理になった。ご指導を踏まえながら、今後整理を進めていきたい。

【本庶議員】

独法の予算の比重が大きい。文部科学省は中期目標を示して中期計画を認可し評価していると言うが、中期目標は総論的。総務省の評価と研究評価は分けて考えるべき。アメリカのNIHは予算規模が大きいですが研究室単位で評価している。独法のミッションに照らしてどんなパフォーマンスが評価する仕組みについて検討が必要ではないか。

【文部科学省】

独立行政法人制度は国が中期目標を示し、独法がそれに基づき作成した中期計画に基づき目標達成に取組み、それを評価するシステム。

一方で、審議未了で廃案となってしまったが、各省の独法の評価を総務省に一元化する法案も提出されたような状況。主務官庁の関与のあり方については、ご指摘を踏まえ今後も検討していきたい。

【奥村議員】

中期目標が漠然としており、「〇〇の研究をする」としか書いていない。中期計画はそれをやるとオウム返しに書いてあるのに過ぎない。明確化すべき。

【文部科学省】

文部科学省の評価委員会でもご指摘の点について難しいと感じており議論しているところ。ご指摘について念頭に置いて検討していきたい。

以上